

PMによる研究開発機関の追加及び資金配分の変更について

平成 30 年 3 月 8 日
革新的研究開発推進プログラム担当室

PM が、新規研究機関の追加を行う場合、また、機関追加後、PM 関係機関（PM との利害関係機関）に増額をする場合は、事務局においてその必要性等を整理した上で ImPACT 有識者会議に確認を求めることとされているところ。

今回、PM から申し出のあった以下の研究開発機関について、その必要性等が認められることをご報告する。

1. PM による研究開発機関の新規追加

PM	実施プロジェクト	研究開発機関名	研究代表者名	申請理由
合田 PM	PJ8 超効率バイオ燃料開発の実証評価	北海道大学	与那嶺雄介	高感度ラマンプローブ開発担当の研究代表者の研究開発機関の移籍に伴い、研究テーマの効率的な継続のため、移籍先である当該研究機関を追加。
藤田 PM	PJ4 核変換システムと要素技術開発	三菱電機	宮下裕次	加速器の大電流化にはビーム負荷保障と制御技術が必要なため、医療用加速器の分野等においてそれらの技術に関し多くの実績を持つ当該研究機関を追加。
藤田 PM	PJ4 核変換システムと要素技術開発	日立製作所	千葉知雄	省エネルギー等の観点から永久磁石でのビーム軌道制御が必要なため、医療用 MRI 等での永久磁石応用において多くの実績を持つ当該研究機関を追加。
宮田 PM	PJ2 バイオエアロゾル	九州大学	加地範匡	PJ2 において、大気中の微粒子を捕集、計測するシステムを開発する目的で、当該研究機関を追加。加地教授はこれまで名古屋大学にて本研究に従事。

2. PMに関係する機関に対する研究資金の配分変更

PM	研究開発機関 (PMとの関係)	研究 開発 責任者	資金配分変更 前→後 (百万円) ※	申請理由
白坂 PM	慶応大学 システムデザイン・マ ジック研究科 (PM自らが研究担当者)	白坂 成功	125→155 (+30)	コンステレーションの民間利用やユー ザ開拓を目的として、新たにDeep Learning処理技術を開発するため、こ れまでオンデマンド即時観測システム 開発に取り組み、衛星データの民間活 用に実績のある当該研究機関を増額。
野地 PM	東京大学 大学院工学系 研究科 (PM自らが研究担当者)	野地 博行	103→114 (+11)	パーソナル診断市場での圧倒的競争優 位の獲得に向け、更なる小型化に必要 な新型酵素の開発に取り組む。人工細 胞リアクタを用いた酵素スクリーニン グ技術を有する当該研究開発機関を増 額。
野地 PM	東京大学 大学院工学系 研究科 (PMの兼業元)	田端 和仁	652→678 (+26)	化学合成ゲノムの細胞内起動の検証に 必要な基盤技術の早期確立を達成。実 証に移行するため当該研究開発機関を 増額。
宮田 PM	名古屋大学 (PMの兼業元)	馬場 嘉信	265→290 (+25)	大学医学部等で実証実験を行う専用 デバイスを開発する目的で、本デバ イスの原理実証を行った当該研究機 関を増額。

※百万円以下は四捨五入している

以 上